

徳島県秋季ジュニア体操競技選手権大会

採点規則【男子】

2024年10月 一部変更

第1章 演技の採点

第1条 原則

- 次に示すもの以外は、(公財)日本体操協会制定 2025年版体操競技採点規則を適用する。
- ゆか、鉄棒は自由演技、円馬、つり輪、跳馬、平行棒は規定演技を行う。
- 演技は美しさ、雄大さ、独創性、安定性を旨とする実施であること。

第2条 決定点

1. 決定点の構成

(1) ゆか、および鉄棒の決定点は次のような配点により構成される。

価値部分	3.00 (0.5 × 6 技)
演技実施	5.40
特別要求	1.00 (0.2 × 5 グループ)
加 点	0.60
可能な最高得点	10.00

2. 演技構成、および特別要求 (種目特有の要求)

(1) 価値部分で最高得点を得るために、ゆか、および鉄棒は次の技数を要求する。

a) 技数 6 技 (1 技につき $0.50 \times 6 技 = 3.00$)

※同一技は2回 (1回のくり返し) まで技の認定とする。

(2) 技の特別要求

a) ゆかと鉄棒において次の特別要求 (種目特有の要求) として演技構成に入れる。

要求を満たさない場合は1つにつき0.20減点とする。

b) 特別要求は次の通りとする。

ゆか) 倒立静止 (2 秒)

片脚上でのバランス技 (2 秒)

3 方向の前後および左右開脚座

前方系の跳躍技
後方系の跳躍技
鉄棒) 前方車輪
後方車輪
バーに近い技
ひねりをともなう技
終末技

(3) 加 点 (ゆか・鉄棒)

熟練性として最大 0.60 まで加点を与える。

熟練性に対する加点は、以下の要素から考慮される。

- ・姿勢の美しさ (0.20)
- ・卓越した雄大さ (0.20)
- ・演技全体を通してのリズミカルな動き (0.10)
- ・安定した着地 (0.10)

(4) 演技実施

a) 実施減点

小欠点	0. 1 0
中欠点	0. 2 0
大欠点	0. 3 0
転倒・落下	0. 5 0

b) 減点に関する特例

i) 鉄棒において、正しい実施のもとに意図して実施された振れ戻りは減点の対象としない。

例) 鉄棒：け上がり～後方車輪、振り上がり～ほん転倒立 など

ii) 飛距離、高さ等に対する減点は体格などを考慮し選手が不利にならないように採点する。

(5) 難度認定の特例

a) 体操競技の健全な発展と評価、そして普及の観点から次の技を「a 難度」として技認定をする。ただし、特別要求は満たせない。主な a 難度は第 4 条 2 の通り。

(6) 規定演技の採点 (円馬・つり輪・跳馬・平行棒)

a) 円馬規定演技

i) 内容

両足旋回 合計 8 回 (配点合計 9.40)

※両足旋回 7 回～両足右入れ、両足左抜き下り (正面支持で終了)

ii) 減点内容

	小欠点	中欠点	大欠点
旋回の不足 (1 回につき)			-1.00
余分な旋回 (1 回につき)			*
旋回のリズム不良 (全体で)	*	*	*
腰の位置が低い (全体で)	*	*	*
スピード感に欠ける (全体で)	*	*	*
左右のバランス不良 (全体で)	*	*	*
停止および落下			-0.50
両支持を示さないで下りをおこなう			*
着地位置が円馬から外れる	*	*	
その他の姿勢欠点 (全体で)	*	*	*

iii) 加 点

最大 0.60 の加点を与える。

加点内容については以下の要素から考慮される。

卓越したスピード感 (0.20)

腰の位置が高く雄大な両足旋回 (0.20)

美しい姿勢を示した両足旋回 (0.20)

b) つり輪規定演技

i) 内容

区分Ⅰ 懸垂姿勢からゆっくり肩転移

区分Ⅱ 腰の曲げ伸ばしを使って前方へ振り出し、懸垂後ろ振り

区分Ⅲ 懸垂前振り、懸垂後ろ振り (連続 4 回)

区分Ⅳ 懸垂前振り、後方伸身宙返り下り

(配点合計 9.40)

ii) 減点内容

	小欠点	中欠点	大欠点
懸垂前振り、後振りの不足 (1 回につき)			-1.00
余分な懸垂前振り、後振り (1 回につき)			*
【区分Ⅰ】柔軟性に欠ける	*	*	
【区分Ⅱ】後振り後で膝がまがる	*	*	*

【区分Ⅲ】懸垂振動のリズム不良	*	*	*
【区分Ⅲ】懸垂振動の姿勢不良	*	*	*
【区分Ⅲ】懸垂振動の大きさが無い	*	*	*
【区分Ⅳ】後方伸身宙返り下りの姿勢不良	*	*	*
演技全体を通して美しさや雄大さに欠ける	*	*	*

iii) 加 点

最大 0.60 の加点を与える。

加点内容については以下の要素から考慮される。

雄大な前後の振動 (0.20)

演技全体を通して美しい姿勢 (0.20)

終末技で安定した着地 (0.20)

c) 跳馬規定演技

i) 内容

前転とび (配点合計 9.40)

※試技は 1 本とする。

ただし、跳馬を越せなかった場合に限り 1 回のやり直しを認める。

ii) 減点内容

	小欠点	中欠点	大欠点
跳躍の突き放しでの姿勢不良	*	*	*
空中での姿勢不良	*	*	*
演技全体を通して雄大さに欠ける	*	*	*

iii) 加 点

最大 0.60 の加点を与える。

加点内容については以下の要素から考慮される。

美しい姿勢の実施 (0.20)

助走のスピード感や突き放しのある雄大な演技 (0.20)

安定した着地 (0.20)

iv) 補 足

跳馬の高さによって採点に差をつけることはしない。

d) 平行棒規定演技

i) 内容

区分Ⅰ け上がりから直接脚前拳支持（2秒静止）

区分Ⅱ 脚前拳支持姿勢から前振り出し

区分Ⅲ スイング連続（5回）

区分Ⅳ 後振り出しから棒間での長懸垂かかえ込み宙返り下り

（配点合計 9.40）

ii) 減点内容

	小欠点	中欠点	大欠点
支持後振りの不足（1回につき）			-1.00
余分な支持後振り（1回につき）			*
支持振動の大きさが無い	*	*	*
支持振動のリズム不良	*	*	*
支持振動の姿勢不良	*	*	*
長懸垂での姿勢不良	*	*	*
演技全体を通して美しさや雄大さに欠ける	*	*	*
け上がりを実施しない	-2.00		

iii) 加 点

最大 0.60 の加点を与える。

加点内容については以下の要素から考慮される。

支持振動で卓越した振動の大きさ（0.20）

演技全体を通して美しい姿勢（0.20）

終末技で安定した着地（0.20）

第3条 禁止技

1. 以下の禁止技を実施した場合、その演技を0点とする。

- ・宙返り転の技（後とびひねりからの技を含む）
- ・後方2回宙返りにひねりが加わった技
- ・前方2回宙返り（後とびひねりからの技も含む）
- ・後方3回宙返り

第4条 その他

1. 事故防止と選手の精神的援助のため、床・円馬を除く種目において2名までの補助者が立つことが許される。

2. 主な a 難度を以下に示す。示された技以外は、選手のレベル等を考慮して審判員が各自で判断する。

ゆか)

- ・前転技群（前転、開脚前転、伸膝前転、倒立前転）
- ・後転技群（後転、開脚後転、伸膝後転、後転倒立）
- ・側方倒立回転
- ・ロンダート

鉄棒)

- ・け上がり支持
- ・懸垂前振りひねり
- ・懸垂前振り逆上がり
- ・後振り上がり支持
- ・両手を持ち換える技
- ・前方支持回転、後方支持回転
- ・後方足裏支持回転振り出し下り

3. 器械器具の寸度

ゆか	12 m × 12 m	
器械種目	床面からの高さ	マットの厚さ
円馬	60 cm	10～12 cm とびつき台の使用で高さ調節は可
つり輪	265 cm	18 cm または 20 cm
跳馬	110 or 120 cm	18 cm または 20 cm
平行棒	175 cm	12 cm
	185 cm	20 cm
鉄棒	265 cm	18 cm または 20 cm

※つり輪、跳馬、鉄棒については、着地マットの使用を認める。

※跳馬の跳躍板は、ハードタイプ（3-3-2）・ソフトタイプ（3-1-2）を使用する。ソフトタイプはコイルを外し（2-1-2）として使用することを認める。使用後は必ず責任を持って元に戻すこと。